

JCMA 報告

bauma China 2008 視察報告

研究調査部

視 察 者：日本ユーティリティサブウェイ(株)
伊藤善吾氏, 小林清氏
カヤバシステムマシナリー(株) 藤田英朗氏
社)日本建設機械化協会 研究調査部 阿部
視察期間：2008年11月24日(月)～27日(木)
視 察 先：中国 上海市

1. 展示会概要

会 場：上海新国際見本市会場 (Shanghai New
International Expo Center)
会場面積：210,000 m²
(屋内 79,000 m², 屋外 131,000 m²)
出展者数：30の国から 1,608 社
来場者数：124の国から約 113,000 人

2. 展示会の様子

会場は上海中心部より東へ約 20km で、通常であれば車で 30～40 分程度の位置であったが、会場方面へ向かう道路は片側 4～5 車線もあるにもかかわらずあちこちで渋滞していた。特に初日(25日)は 2 時間もかかってしまったのには驚いた。

今回の展示会は、前回(2006年)に比べ、面積、出展者、来場者数それぞれ約 1.4 倍であり、世界的な不況の中、BAUMA の実力が示された感があった。

視察中は天候に恵まれ、来場者も非常に多かった。人気が高かったのは、地元企業の屋外展示場で、一番広いスペースを使っていた三一集团有限公司(SANY)や徐州工程机械集团有限公司で、やはり地元最員がか



人気の高い SANY の 1000t クレーン



SANY の実演に集まった来場者

なりあるように感じられた。

屋内には建設資材製造機械、各国パビリオン(共同出展)、建設工具・型枠・足場・検査/測定機器、建設機械/建設用車両、トランスミッション・流体技術、機器/交換部品が 7 棟で展示されていた。



屋内展示場の状況



屋内でもかなりの数の建設機械の展示がある

屋外展示場にはバッチャープラント、ホイールクレーン／固定式クレーン、バックホウなどの大型の設備や機械が中心に展示されていた。

来場者も地元の中国人だけでなく、各国の人たちが各種の機械に興味を示していたのが印象的で、中国語、英語、韓国語、ドイツ語などある程度聞いたことのある言葉や訳の分からない言葉が飛び交い、世界的な展示会であることが実感された。



屋外展示場風景

今回の視察で気になったのは、世界的な建機メーカーの一角である CAT 等が出展していなかったことである。

これは、前回も同様であったようだが、中国での建機展が2年の間に3回も開催されることが影響しているのではないかと推測されている。

世界的な不況感が漂う中、中国の元気が目立つ展示会であった。

展示会での印象として、日本で開発された技術がすぐに中国をはじめとする各国で取り入れられており、日本独自の技術であるなどとは言われていない状況であったことである。

機能的な面や技術的な詳細は語学力の問題で分からないが多かったが、世界の技術には感心させられた。



セレモニー会場（休憩所として使用）

協会としての出展ブースは、2009年に予定されている CONET の紹介を主としており、他の機械等の実物展示ブースに比べると来場者の様子は見劣りするのは否めないようであったが、協会のアピールのためには出展は欠かせないと思われた今回の視察であった。



協会出展ブース